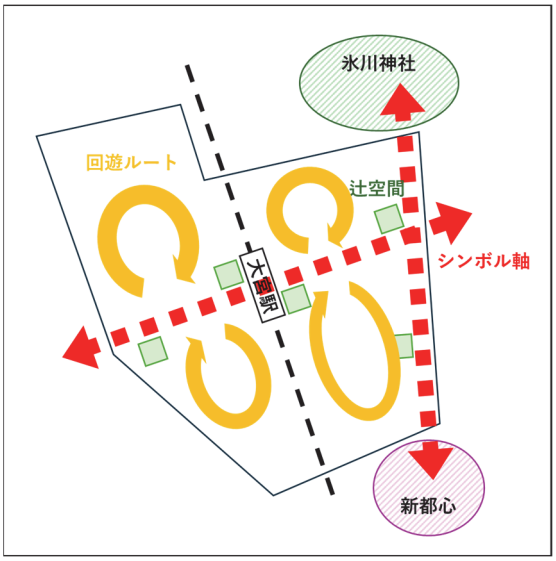
１．ウォーカブルなまちづくりの実現に向けた歩行者空間形成方針

- 「推進戦略【活動編】」では、これまで築いてきた「大宮らしさ」を土台として、大宮を取り巻く社会的動向や令和３年度に実施したマチミチコンペで頂いたアイデア、令和４年度実施した作戦会議での意見等を踏まえ、大宮駅周辺のウォーカブルなまちづくりに向けた「コンセプト」とその実現に向けた「４つのウォーカブル戦略」を掲げました。（次頁参照）
- 本編は、上記の「コンセプト」と「戦略」を基本とし、大宮駅周辺において居心地が良く、歩き・過ごし・活動したくなる歩行者空間形成（歩行者ネットワーク＋滞在空間）を推進するための計画であり、活動編で位置づけたつかうプロジェクトを下支えするための空間づくりである『**つくるプロジェクト**』を推進するものです。
- 第２章では国等のまちづくりの動向や上位計画等における位置づけの整理から、大宮駅周辺の目指すウォーカブルなまちづくりの考え方を整理し、第３章ではウォーカブルなまちづくりに向けた課題を、ウォーカブルなまちづくりを構成する３つの要素「道路ネットワーク、歩行者ネットワーク、滞在空間」の視点で整理しました。
- 道路ネットワークの形成は、大宮駅周辺のウォーカブルなまちづくりを実現する観点では重要な要素ですが、自動車交通の処理は広域的な視点での整理が必要であり、上位計画にあたる「大宮駅周辺地域戦略ビジョンの大宮駅周辺地域まちづくりの方針と交通戦略」において道路ネットワーク形成の考え方が示されていることから、本編ではその位置づけを前提として扱います。（P.39 参照）
- 歩行者ネットワークの形成に向けた課題に対しては「シンボル軸の形成」と「エリア内回遊ルートの強化」を、滞在空間の形成に向けた課題に対しては「滞在快適性の向上」を『歩行者空間形成方針』として掲げ、大宮駅周辺のウォーカブルなまちづくりの実現に向けた取組を推進します。（次頁参照）
- 具体的には、歩行者空間の形成に向けて、大宮駅周辺の骨格となる「シンボル軸を形成」するとともに、商店街や目的地へのアクセスルートとなる「エリア内の回遊ルートの強化」、エリア内の回遊や滞在、活動を促す「滞在快適性の向上（辻空間やオープンスペース）」との一体的な取組により、ウォーカブルなまちづくりを実現します。

【歩行者空間形成方針の概念図】



【ウォーカブルなまちづくりの実現に向けた歩行者空間形成方針】

【コンセプト】わたしの時間がみちるまち、大宮

【戦略１】	【戦略２】	【戦略３】	【戦略４】
心も体も満たされたウェルビーイングなまちづくり	地域資源と活動をつなげるニワマチづくり	変化やニーズに柔軟に対応できるフレキシブルなまちづくり	人と人、人と出来事の出会い・交流からイノベーションが生まれるまち

活動編

■**歩行者空間形成方針の考え方**

＜**ウォーカブルなまちづくりに向けた大方針**＞

大宮駅周辺をウォーカブルなまちにするための歩行者空間の形成

＜**戦略が描く姿の実現に向けた課題**＞

【歩行者ネットワーク】
①都市軸にふさわしい歩行者空間の未形成
②自動車・自転車・歩行者の錯綜
③地域資源を結ぶネットワーク不足
④まちなかのみどりの不足

【滞在空間】
①駅前広場における滞在空間の不足
②市街地再開発事業等の活性化
③低未利用地の点在によるにぎわいや景観の連続性低下
④オープンスペースの不足
⑤街路や沿道を活用した取組は限定的

【道路ネットワーク】
①道路ネットワークの容量不足
②慢性的な交通渋滞
③交通結節点の利便性や快適性が低い　等

＜**歩行者空間形成方針**＞

【歩行者ネットワーク】

1）シンボル軸の形成
大宮駅周辺の骨格となるシンボル軸の形成

2）エリア内回遊ルートの強化
商店街や目的地へのアクセスルートとなるエリア内回遊ルートの強化

【滞在空間】

3）滞在快適性の向上
エリア内の回遊や滞在、活動を促す辻空間やオープンスペース等の滞在快適性の向上

【道路ネットワーク】
※大宮駅周辺地域戦略ビジョンにおける「大宮駅周辺地域まちづくりの方針と交通戦略」を前提とする。

計画編

（参考）大宮駅周辺地域戦略ビジョンにおける道路ネットワークに関する位置づけ

【大宮駅周辺地域まちづくりの方針】　出典：大宮駅周辺地域戦略ビジョン／さいたま市

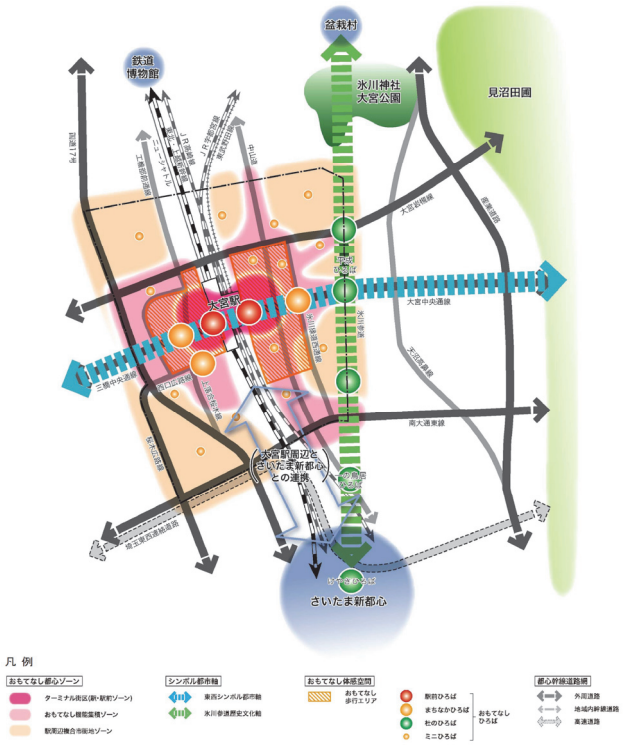
■都心活動を支える交通基盤
（既定都市計画道路の整備の推進）

〇外周道路

・都心を形成する広域幹線道路を強化し、通過交通と地域アクセス交通との分離によって、都心部の渋滞の解消と秩序ある交通環境を維持する。

〇地域内幹線道路

・おもてなし歩行エリアの外周を形成する幹線道路を整備し、公共交通のスムースな通行による街へのアクセシビリティ改善、荷捌き等の業務活動の円滑化等を図る

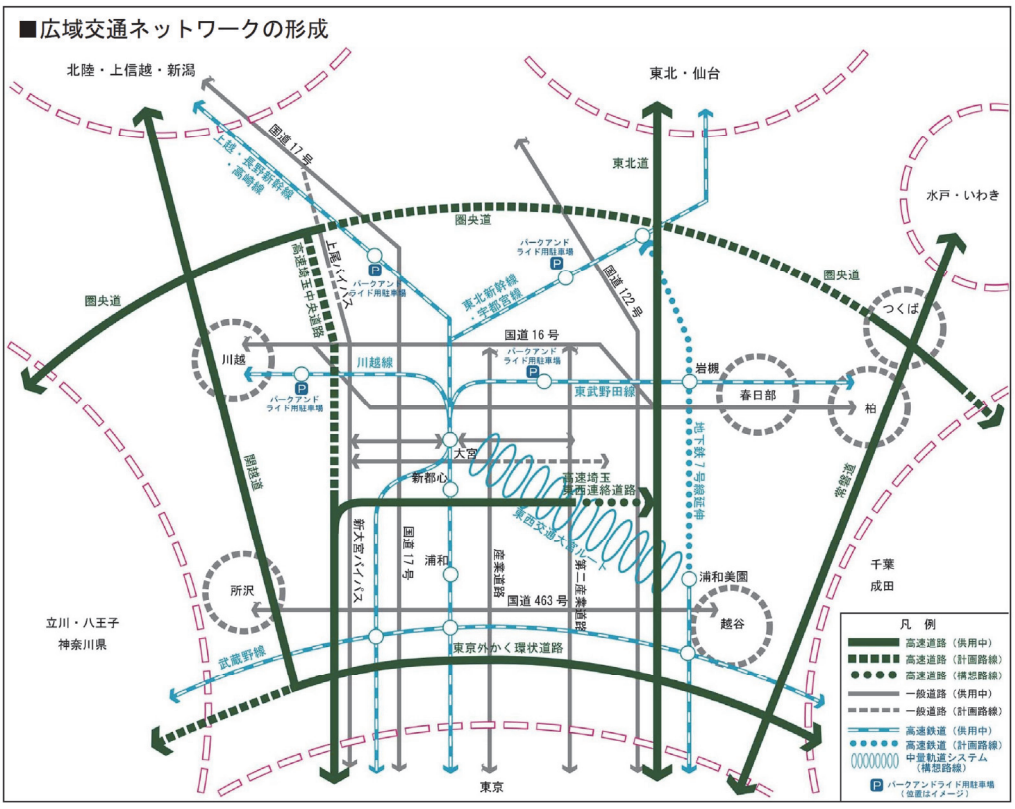


【交通戦略】　出典：大宮駅周辺地域戦略ビジョン／さいたま市

■都心活動のモビリティを向上させる戦略（交通基盤戦略）

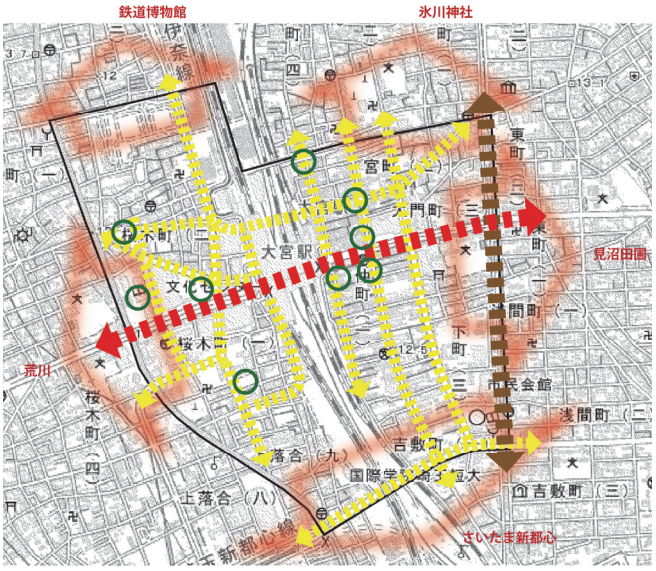
■ねらい

〇広域的な拠点性を持つまちにふさわしい交通体系を形成することで、首都圏や東日本だけでなく、国内や海外とのつながりを強化するための空港や港湾へのアクセス性の向上を図ります。
〇さいたま新都心との連携強化を図るとともに、駅東西の連絡の利便性を向上させることで、様々な人やモノが行き交う都心をつくります。



2．大宮駅周辺を形成する歩行者空間の目指す方向性

- 大宮駅周辺を形成する歩行者空間は、上位関連計画（大宮駅周辺地域戦略ビジョン、大宮 GCS 化構想、大宮 GCS プラン 2020、大宮駅西口の各地区まちづくり方針等）の位置づけから大きく 4 つのタイプに分類することができます。
- それぞれの歩行者空間のタイプは担う役割が異なることから、歩行者空間形成方針に向けた目指す方向性をタイプ毎に整理しました。
- 右図上のオレンジの矢印は対象範囲外の施設や場所等を含めた広域的な回遊を促すことを表現しています。



歩行者空間形成方針	タイプ	タイプが担う役割	目指す方向性	根拠
シンボル軸の形成	東西都市軸	・歴史的背景等を踏まえ、地区の東西に貫く、まちづくりの軸となる都市軸	・一般車等の通過交通を抑制する交通規制等により、歩行者や公共交通を優先した街路空間を形成します ・歩車空間の再配分や沿道建物等との連携により、ゆとりある歩行者空間を確保し、通行と滞在の双方の機能を充実します ・都市軸へのアクセスや回遊を促すモビリティ・ハブを形成します	・大宮駅周辺地域戦略ビジョンのまちづくり方針図における「東西シンボル都市軸」
	歴史・文化軸	・参道に象徴される歴史・文化を次世代に継承する役割を担う街路	・大宮の歴史・文化を身近に感じることができ、歩きやすい設えと沿道と一体的な空間形成による、居心地が良く歩きたくなる空間を形成します	・大宮駅周辺地域戦略ビジョンのまちづくり方針図における「氷川参道歴史文化軸」
エリア内回遊ルートの強化	エリア内回遊ルート	・商店街や公共公益施設等へのアクセス道路など、歩行者を中心としたエリア内の回遊を促す街路	・一般車等の通過交通を抑制する交通規制等により、歩行者優先で思い思いの過ごし方ができる街路空間を形成します ・沿道建物から街路への滲みだし等による、沿道建物と街路が一体的な利活用がされ、賑わいがあり、居心地の良い空間を形成します	・大宮駅周辺地域戦略ビジョンの「おもてなしひろば」の創出における「回遊動線」 ・大宮 GCS 化構想の全体イメージ図における「歩行者ネットワーク」 ・大宮駅西口第三地区及び第五地区のまちづくりの方針
滞在快適性の向上	辻空間オープンスペース	・都市全体の回遊・活動を促す役割を担う空間 ・活動を受け止めるオープンスペース	・回遊や滞在、活動を促す機能や設備が充実したオープンスペースを創出します ・やりたいとの思いを受け入れ、実現できる環境が整ったオープンスペースを創出します	・大宮駅周辺地域戦略ビジョンの「おもてなしひろば」の創出における「ひろば」 ・大宮 GCS 化構想の全体イメージ図における「歩行者ネットワーク」 ・大宮 GCS プラン 2020 の全体方針図における「主要な歩行者動線軸」及び「主要な回遊動線」 ・大宮駅西口第三地区及び第五地区のまちづくりの方針